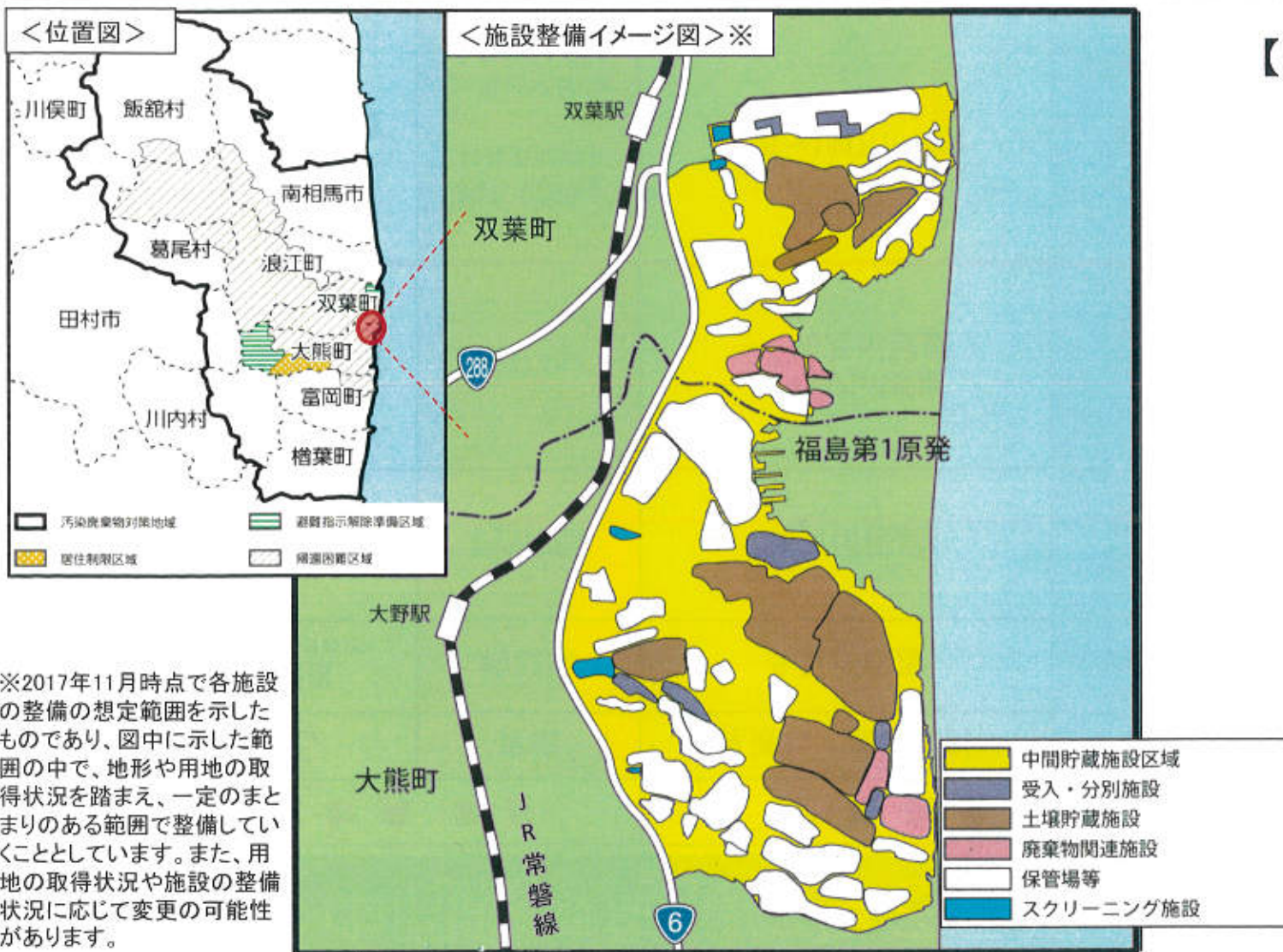


中間貯蔵施設について

< 中間貯蔵施設とは >

- 福島県内では、除染に伴う放射性物質を含む土壌や廃棄物等が大量に発生。
- **最終処分するまでの間、安全に集中的に管理・保管する施設として中間貯蔵施設の整備が必要。**
- 施設では、福島県内の除染に伴い発生した除去土壌や廃棄物、10万Bq/kgを超える焼却灰などを貯蔵。



【中間貯蔵施設事業の進め方】

用地取得

(受入・分別施設、土壌貯蔵施設等の)
施設整備

(県内仮置場から中間貯蔵施設へ)
輸送

(除去土壌、廃棄物等の)
処理・貯蔵

中間貯蔵施設に係る見通しと進捗状況

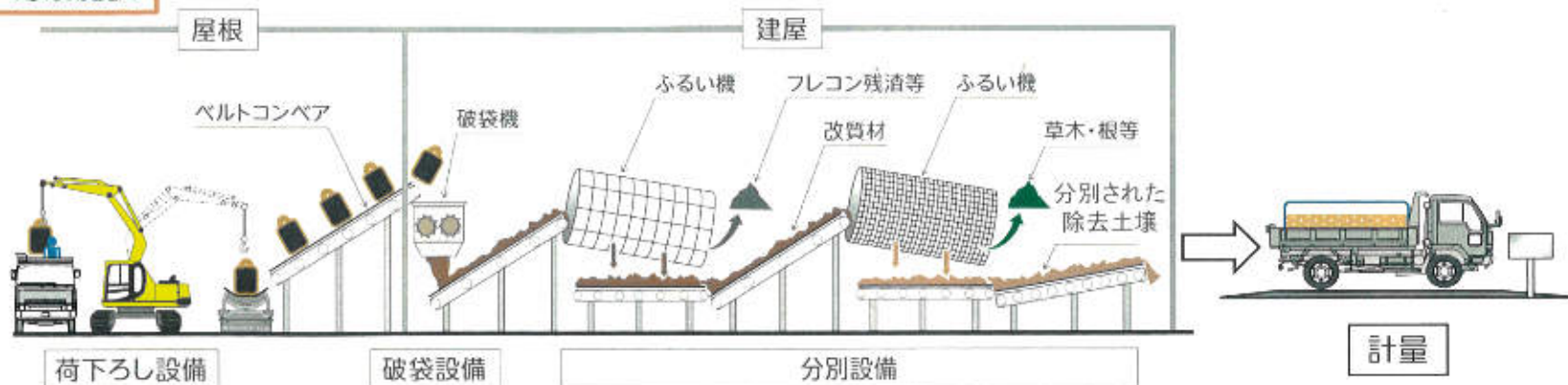
年度	用地取得(累計)		輸送量(各年度)		施設整備
	見通し	実績	見通し・事業方針	実績	
2015	22ha程度 (2016年3月25日時点)	約22ha	5万m ³ 程度	約4万5千m ³	<ul style="list-style-type: none"> 中間貯蔵施設の保管場を整備 2016年度以降も随時必要な保管場を整備
2016	140～370ha程度	約376ha	15万m ³ 程度	約18万4千m ³ (累計約23万m ³)	<ul style="list-style-type: none"> 9月 仮設焼却施設(大熊町)着工 11月 土壌貯蔵、受入・分別施設着工
2017	370～830ha程度	約874ha	30～50万m ³ 程度 → 50万m ³ 程度	約53万m ³ (累計約76万m ³)	<ul style="list-style-type: none"> 6月 受入・分別施設の試運転開始 10月 土壌貯蔵施設、受入・分別施設の運転開始 12月 仮設焼却施設(大熊町)火入れ式
2018	400～940ha程度	約1,037ha [9月末時点] ※用地全体のうち約64.8%	90万～180万m ³ 程度 → 180万m ³ 程度	約58万6千m ³ [9月末時点] (累計約134万m ³)	<ul style="list-style-type: none"> 6月 廃棄物貯蔵施設着工 7月 土壌貯蔵施設、受入・分別施設(第2期)運転開始 双葉町の仮設焼却施設及び灰処理施設着工予定
2019	520～1,040ha程度		160万～400万m ³ 程度 → 400万m ³ 程度を目指す		<ul style="list-style-type: none"> 双葉町の仮設焼却施設及び灰処理施設稼働予定 廃棄物貯蔵施設稼働予定
2020	640～1,150ha程度 (区域全体面積約1,600ha)		200万～600万m ³ 程度 (累計最大1,250万m ³ 程度)		

※ 中間貯蔵施設に係る「当面5年間の見通し」は、2016年3月公表。事業の進捗状況を踏まえ、必要に応じて随時見直しを行う。

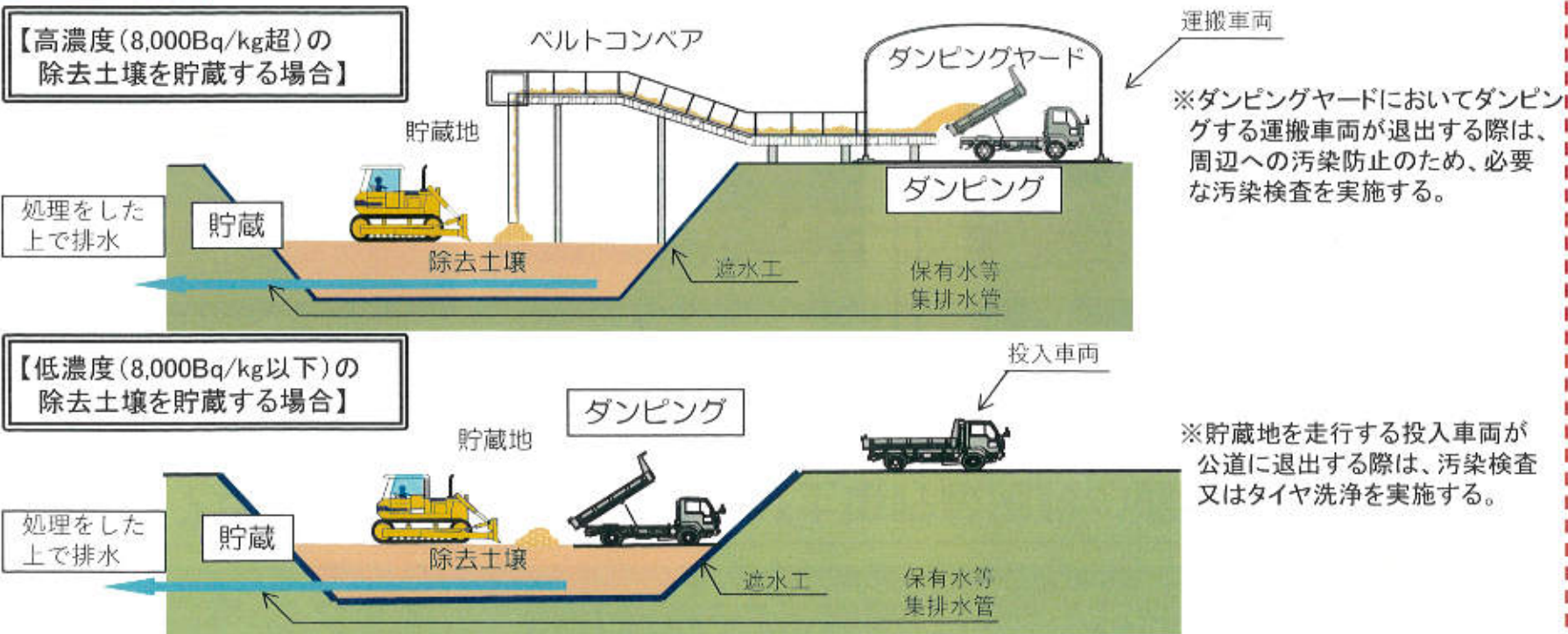
※ 福島県内の除去土壌等の輸送対象物量は、2018年8月時点で約1,400万m³。

受入・分別施設及び土壌貯蔵施設のイメージ

受入・分別施設



土壌貯蔵施設



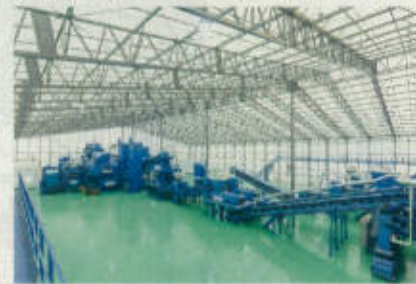
受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の運転状況

2017年から受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の運転を開始。現在、各6施設が運転中しており、追加整備中。

大熊①工区(鹿島JV)



大熊③工区(大林JV)



大熊②工区(清水JV) ※2施設



双葉①工区(前田JV) ※2施設

